

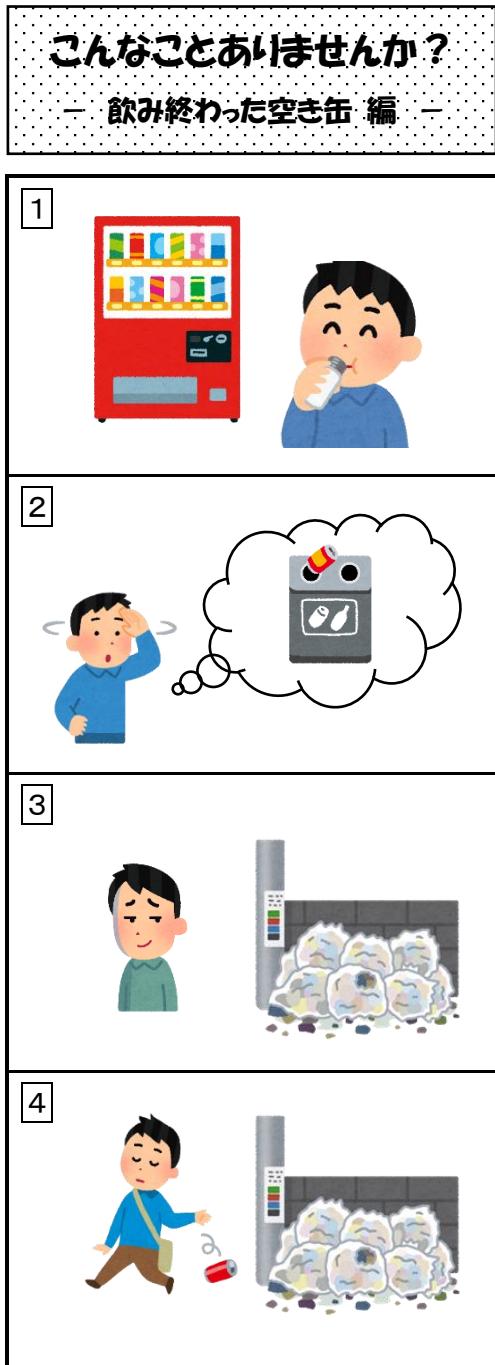


天知る地知る我知る

中国の古い歴史書に、「天知る  
地知る 我知る」という言葉があります。誰も見ていないと思っても、天が知っている。地も知っている。何より、自分自身が一番よく知つて  
いるという意味です。

とかく私たちは誰も見ていない場面で自分を律することが難しいのです。私は早朝、空が真っ暗で人も車もいな中でウォーキングをすることがあります。左は赤信号で立ち止まつた場面での心の中の声

**B** 誰もいないから渡つてしまえ  
**A** 青信号になるまで待とう



この場面こそ、自分自身に判断が任される瞬間といえます。私が中学3年生で自転車通学をしていた頃、卒業式の1週間前に1度だけ自宅まで100mの地点でノーヘルになつたことがあります。それが何故だか、格好いいと感じていたことを覚えていています。それまでは、1度もノーヘルをしたことはありません。

1度だけ、ほんの100mの過去が  
私にとつて「毎日ヘルメットを着用  
した」という誇りから「1度だけ、  
ノーヘルになつてしまつた」という  
過ちに書き換えてしました。

ません。そのせいか足元にはゴミが散乱しています。空き缶だって同じように捨ててしまつても構わないだろう。という思考です。

◆ 割れ窓理論◆

さて、『割れ窓理論』という考えがあります。身の周りの小さな乱れを早期に治めることで大きな乱れを抑止できるというもの。左のような場面で飲み終えた空き缶を入れるゴミ箱を探しても近くに見当たり

気持ち良い環境を維持することができるともいえます。

できます。つまり身の周りの環境が整つていれば1人1人が気をつけ

## ◆ 臨時全校集会をしました ◆

最近、校内のあちこちで、器物のいたずらや破損が続いていました。

学年によつては学年集会を開いて生徒に呼びかけたりアンケートで感じたことを書いたりしてもらいました。

中には危険を伴う場所もあつた

ため、校内で修理可能なものは即時対応してきました。修理しているとそばを通つた生徒たちから、「すみません」「大変ですね」「ありがとうございます」とたくさん声をかけてもらいます。時には簡単なお手伝いまでしてくれる人もいます。しかし

8日（月）に3階男子トイレの壁の破損が見つかりました。

このトイレは今春、新しく直してもらつたばかりです。避難所として利用できるように、バリアフリーで車いすの方も入りやすい設計です。白根北中学校が長年、教育委員会に改修の要望を出し続けて、ようやく

実現した待ちに待つたトイレです。それまでの先輩方は古く使い辛いトイレを大切に使用していました。

もちろん古い、新しいという問題ではありません。学校という公共の施設の利用にはルールとマナーが必要です。普段の学校生活ではそのことも併せて学んでいるのです。

このことについて、9日（火）に臨時の全校集会を設け、次のような話をしました。（以下、抜粋）

これだけの人数が毎日生活しているので、どんなに丁寧に使つても物は壊れます。これまでも、何かの拍子で壊してしまつたり、ふざけて壊してしまつたりしたことがありました。が、勇気をもつて、きちんと名乗り出してくれることがほとんどでした。「後始末」がきちんとできた失敗です。きっと、次に活かされる失敗です。今回、こうして集まつてもらつたのは、誰がやつたか分から

ない破損が他にも多数続いているからです。

想像してみてください。今までの

先輩たちが大切に使い、これから的是あります。学校はお互いを信頼

後輩たちが使つていく校舎を壊しても知らん顔をして逃げることは

成功と呼べますか。これこそ大失敗

ではないですか。自分が嫌な思いを

したくないからきまりやマナーを守つている大多数の人たちが嫌な

思い、不便な思いをしていることに考えが至らないことがとても残念

です。失敗したり、良くないことをしてしまつたりしたら後始末する。できない人の将来が心配です。

先日の新聞報道であったように市内の中学生が公園の施設の破壊

行為で逮捕されました。このように学校外でこのような行為をすれば警察に逮捕されるほど重大なことです。学校も地域の大切な公共施設です。災害時には、避難所にもなる拠り所です。どうか、皆さん的眼も

貸してください。同じことが新たに起こらないように。皆さんのが正義の眼が間違つた行動を防ぎます。

その一方で、学校はお互いを信頼することも学ぶ場です。失敗したと感じている人は、きちんと申し出でくれることを願っています。（以上）

教育の目的は主に人格の完成を目指すこととされています。決して

中学校3年間だけで成し得るものではありません。中学校は皆さんの

長い人生のわずか3年しか関わることができません。中学校を卒業し

たらそれぞれの進路に進むことになります。皆さん1人1人が、これから

世界を創つていくのです。今はそのすぐ直前に立つてているのです。

令和7年12月10日（水）

令和7年度 臨時号

文責 校長 山口 靖博